Pierre Génisson

クラリネット奏者

クラリネット奏者 Pierre Génisson は、フランス管楽器楽派を代表する最も高名な奏者の一人である。2018年にはフランス学士院芸術アカデミーより「チーノ・デル・ドゥーカ」賞を授与された。カール・ニールセン国際コンクール、東京のジャック・ランスロ国際クラリネットコンクールなど権威ある国際コンクールの覇者であり、バンク・ポピュレール財団、サフラン財団、「Musique et Vin au Clos Vougeot」財団のローレアト（受賞者）にも選ばれている。

モダン楽器にもピリオド楽器にも等しく精通し、ベルリン・ドイツ交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、BBCのオーケストラ、Orchestre Métropolitain de Montréal、Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo、Turku Philharmonic、Verbier Festival Chamber Orchestra、Concerto Köln、Odense Symphony Orchestra、四川交響楽団、Orchestre de Chambre de Paris、Orchestre National d'Île-de-France、Orchestre de Bretagne、Orchestre de Montpellier、Orchestre Philharmonique Royal de Liège、Düsseldorf Symphoniker、Insula Orchestra といった名門オーケストラにソリストとして定期的に招かれている。

2026/27年シーズンには Orchestre National de Bretagne のアーティスト・イン・レジデンスを務め、9月にはウェーバーの協奏曲、12月には「Play & Conduct（弾き振り）」プログラム、4月にはゴルファム・ハイヤームのクラリネット協奏曲の初演で共演する。シーズンの主な公演として、ロンドン（ウィグモア・ホール）、モントリオール（サル・ブルジー）、パリ（フィルハーモニー・ド・パリ、サル・ガヴォー）、クロンベルク、ハンブルク、ヴェルビエ、シュロス・エルマウ、ラ・セーヌ・ミュジカルでのコンサートが予定されており、Steven Isserlis、Jerusalem Quartet、Martha Argerich、Edgar Moreau、Frank Braley、Bruno Fontaine、Nemanja Radulovic、Jean-Efflam Bavouzet、Karol Beffa、Raphaël Merlin と、また Symphoniker Hamburg、Orchestre de Chambre de Genève、Orchestre National Avignon-Provence、Orchestre de Saint-Étienne、Orchestre de la Garde Républicaine と共演する。

Krystof Urbansky、Olari Elts、Gergely Madaras、Gábor Takács-Nagy、Darell Ang、Sacha Goetzel、Veronika Eberle、Andreas Ottensamer、Alexandre Bloch、Laurence Equilbey、Ton Koopman、Lionel Bringuier など、世界的に著名な指揮者と共演を重ねている。

ヴェルビエ、グシュタード、クラン＝モンタナ、香港、ブレーメン音楽祭、ヴュルツブルク・モーツァルト音楽祭、ツィナンダリ、ハンブルク・マルタ・アルゲリッチ音楽祭、ドレスデン音楽祭、マントン、コルマール、エヴィアン、サン＝ジャン＝ド＝リュズのラヴェル音楽祭、ランスのフラヌリー・ミュジカル、ペリゴール・ノワール音楽祭、シス＝フール＝

レ＝プラージュ、ロワイヤンのジュディ・ミュジコー、Un Violon sur le Sable、オーヴェール＝シュル＝オワーズ音楽祭、ソー城オランジュリーなどの音楽祭にも定期的に招かれている。

ソリストとしての活動に加え、Pierre Génisson は世界有数の弦楽四重奏団（エベーヌ、モディリアーニ、エルサレム、ツェムリンスキー、エルメス、ヴァン・カイック等）と、また Maxim Vengerov、Alexander Sitkovetsky、Nemanja Radulovic、Marc Bouchkov、Miguel Da Silva、Lise Berthaud、Jean-Frédéric Neuburger、David Kadouch、Frank Braley、Denis Kozhukhin、Antoine Tamestit、Steven Isserlis、Daniel Müller-Schott、Michel Dalberto、David Bismuth、Bruno Fontaine、メトロポリタン歌劇場のソリストたち、Patrick Gallois、Marielle Nordmann、Emmanuel Ceysson、Karine Deshayes、Delphine Haidan といったソリストたちとの音楽的な出会いを重ねている。

現代音楽の熱心な擁護者として、Pierre Génisson は海外でフランス音楽を広めるとともに、トリスタン・ミュライユ、ティエリー・エスケシュ、エリック・モンタルベッティ、カロル・ベッファ、そして複数の協奏曲や室内楽作品を彼に献呈したエリック・タンギーら、多くの作曲家と協働している。また、世界各地での数多くのマスタークラスや、自ら教鞭を執るパリのエコール・ノルマル音楽院（アルフレッド・コルトー）を通じて、後進の指導にも時間を割いている。

2023年よりエラート／ワーナーの専属アーティスト。この提携による最初のアルバムは Concerto Köln との共演によるモーツァルト作品集で、批評家から一様に高い評価を受けてきた充実したディスコグラフィ（ディアパゾン・ドール、クラシカ誌「Choc de l'année」、テレラマ誌「ffff」、サンデー・タイムズ紙「今週のCD」、グラモフォン誌、レスムジカ「Clef d'Or」など）に新たな一枚を加えた。2024年には、ピアニスト Bruno Fontaine の編曲により、Monica Bellucci、Lambert Wilson、Youn Sun Nah、Kimberose らをゲストに迎え、グレート・アメリカン・ソングブックの名曲を収めたアルバム「Songbook」をリリースした。

最新リリースは2026年10月（ワーナー・クラシックス）の「Weber and the Clarinet」。Mozarteum Salzburg Orchester と Gábor Takács-Nagy、そして Frank Braley との共演による、ウェーバーのクラリネット作品全集である。

パリ国立高等音楽院にて、クラリネットをミシェル・アリニョンに、室内楽を Claire Désert、Amy Flammer、Jean Sulem に師事。両部門で審査員全員一致の一等賞を得て卒業した後、ロサンゼルスの南カリフォルニア大学で Yehuda Gilad のもと研鑽を積み、アーティスト・ディプロマを取得した。

Pierre Génisson は、ビュッフェ・クランポンおよびヴァンドレンのアンバサダーとして活躍している。

マネジメント: Paul Brière, Agence Artistique Jacques Thelen, +33 6 30 43 27 58,

pbriere@jacquesthelen.com
www.pierregenisson.com